

介護保険へ移行する際の状況についてのアンケート結果

(10事業所配布)

問1、介護保険への移行の際、調整に困ったことがありますか。

特に困ったことはない。 4事業所

困ったことがある。

今まで 22 事例

今年の上半期(H25.4月～9月末) 4 事例

問2、困った事がある方にお尋ねします。具体的に困った事とは、何ですか。

<内容>

- ・ 介護保険制度の理解が不十分
サービスの内容が理解されていない。
なぜ制度を変わらなければいけないか、理解していただけない。
「事前にそのような説明はなかった」との訴えがあった。
利用負担が生じる方が多く、納得に時間がかかる。
- ・ サービス量や時間数の変化に調整が上手くいかない
サービス量が大幅に減少となる事が一番納得してもらえない。
ヘルパーの利用時間の制約。
- ・ 行政の課同士で連絡が取れていないことがあった(サービス切り替え日、給付調整、認定日 他)。
- ・ 65歳までに障害福祉サービスで入所できるか、在宅で介護保険になるのか間際まで分からず、不安がられていた。
- ・ ケアマネージャーにつないだ時、「要介護は受けもつが、要支援になったらできません」と言われ、対応に困った。要介護認定後は関われない為、その後のフォローが出来ないのでスムーズに移行出来たか分からない。
- ・ 障害のサービスを受けておられた方が末期がんを宣告され、それまで関わった関係者から介護保険の関係者に代わらなければいけなくなった。一から関係を築かなければならない精神的負担やサービス利用料が発生し、金銭的負担が大きい。
- ・ 聴覚障害者の方で介護保険に移行することになり、介護保険施設にならなければいけなくなった。施設で他者との会話が成り立ちにくい中で、誰ともコミュニケーションをとれず、認知症がすすんだ方がいる。

- ・ 聴覚障害の方で、同じ聴覚障害のサービスを使われていた方が、介護保険になり、同じ仲間がいない所は使いたくないと介護保険のサービスが使われなかった方がいる。

問 3、介護保険へのスムーズな移行のために、どんなシステムや対策などがあつたら良いと思いますか。

<内容>

- ・ 障害のサービス給付内容(特にヘルパー)と介護保険サービス(ヘルパー)の大幅な差を少なくする。
- ・ サービスを選択して利用ではなく、区分で単位数を決定して、その内でサービスの組み立てをする。
- ・ 生活支援課、障害福祉課、介護保険課、保健センターで連絡を密にとってほしい。
- ・ 介護保険移行にあたって、不安に思われている事をご本人に分かりやすく説明したり、相談できるシステム。
- ・ 障害の方の時間数(現行)から、介保の時間数を引いた分を障害で利用してもらい、介保の時間数を介保で使ってもらい、現行の持っている時間数が減らない様にすれば良いと思います。
- ・ 要介護認定が出た後、ケアマネにつなぐ為のマニュアルを作成して欲しい。
- ・ ケアマネと相談支援事業所の顔合わせの場があれば良いな、という意見がありました。
- ・ 高齢のサービスでは(障害のある方は)合わない方もいる。65歳以上でも障害のサービスが使える等、柔軟な対応ができると良いと思われる。
- ・ 障害特性を理解していただく為に介護保険のケアマネジャーさんにも障害者相談の研修など参加して頂きたいと思います。
- ・ お互いの支援者が双方の制度をよく理解していないのではないか。介護保険の事業者が障害者を知らないのではないか。お互いの関係者がブロック会議や地域自立支援協議会、福祉行事への参加などで相互に交流していくと良いのでは。